知恵の樹

growing in OZUKA

広島市立大学
附属図書館報

第６４号　２０１５年１月

特集　レポート・論文作成のための文献入手法
-レポートからシューカツまで、何でもお手伝い- ―― 1～3
学長対談「この人と話したい」
知の鉄人・来田卓哉さん紙面レポート ―― 4～5
大塚中学校職場体験レポート！ ―― 6
いちだい知のトライアスロン
イベント報告　＆　関連事業報告 ―― 6～7
わたしの一冊 ／ LOOK HERE! ―― 8

特集　レポート・論文作成のための文献入手法
-レポートからシューカツまで、何でもお手伝い-

CiNii Articles で検索した記事や、参考文献に挙げられている論文をいざ読みたいと思ったとき、「どうやって入手すればよいのだろう？」と途方に暮れたことはありませんか？そんなとき使ってもらいたいのが、「**リンクリゾルバ**」と呼ばれるツールです。
附属図書館では、10 月の図書館システム更新にあわせて、リンクリゾルバ「**360Link**」を導入しました。利用法を知って、ぜひ積極的に活用してください。

図書館 HOME→資料の検索→電子ジャーナル･データベース→電子ジャーナル･データベース

そもそもリンクリゾルバとは？

リンクリゾルバは、文献データベース、電子ジャーナル、図書館蔵書検索システム（OPAC）等を相互にリンクさせ、必要な文献を入手できるようナビゲートしてくれるシステムです。探している文献が、本学で「電子版として今すぐ閲覧できるのか」、「冊子として所蔵しているのか」、「他の図書館から取り寄せなければいけないのか」などの判断を手助けしてくれる便利なツールです。

1）データベースの検索結果から利用する

【例】「就職活動」について何か記事がないかな…

データベース ： CiNii Articles
キーワード　 ： シューカツ
で検索してみた。

検索画面

検索♪

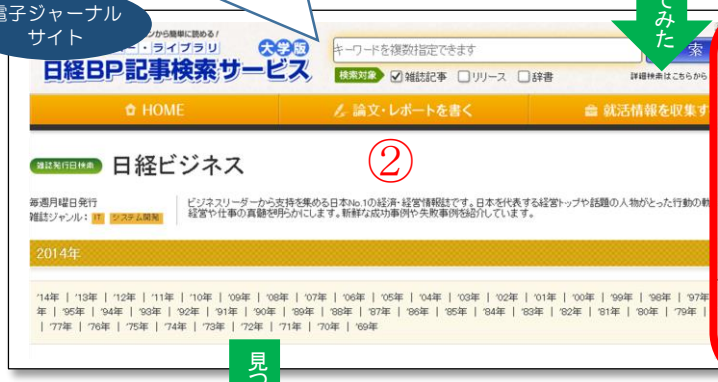
検索結果画面

①結果画面に「**リンクリゾルバ**」という文字が出現
「これは何？」

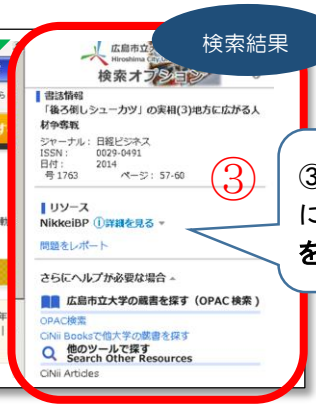
②画面の左側に
電子ジャーナルサイトが表示されるので、

押してみた

電子ジャーナルサイト

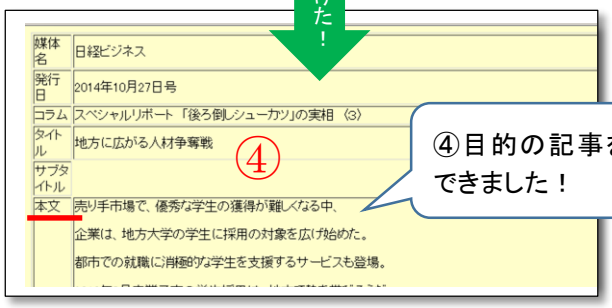


検索結果



③右側の書誌情報を元に、**記事の巻・号・ページを探す**

見つけた！



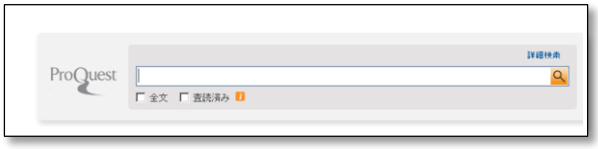
④目的の記事を読むことができました！

⑤
電子版がない場合は
3）へ →

⑥そのほか、リンクリゾルバへのナビゲートが表示されるデータベースには、以下のものがあります。

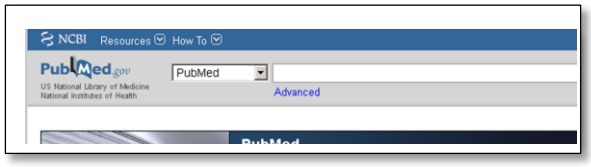
【注】＊はブラウザ側の設定が必要です。詳しくは図書館 Web サイトでご確認ください。

ProQuest Research Library
http://search.proquest.com/



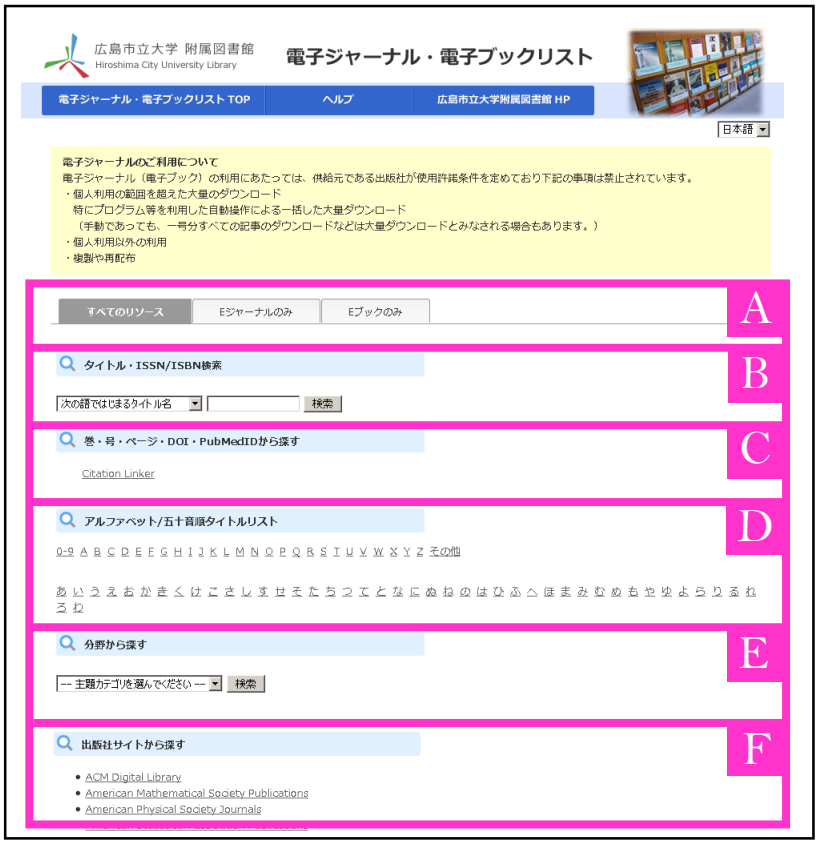
Google Scholar
http://scholar.google.co.jp/　＊

PubMed（広島市立大学用）
http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/?otool=ijpshcullib　＊



2）特定の論文を探す

【例】参考文献に挙がっている資料。
「電子版で無いかな…」と思ったら



A **リソースの種類**を限定する
（すべてのリソース/ E ジャーナルのみ/ E ブックのみ）

B 雑誌・図書の**タイトル名、ISSN/ISBN** から探す

C **DOI・PubMedID** から探す

【Citation Linker(サイテーションリンカー)】
最近の学術雑誌論文には **DOI** という、その論文固有の ID がある場合があります。
DOI がわかる場合は、ここに入力することによってその論文の検索結果が表示されます。

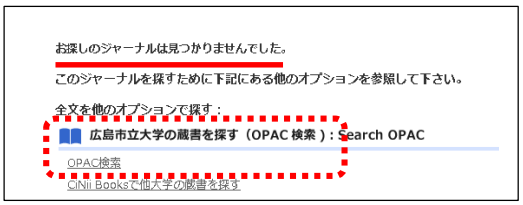
※サイテーションリンカーは、ジャーナル名、ISSN、DOI、PMID からのみ検索できます。

D 雑誌・図書の**タイトル名の頭文字**から探す

E **分野**から探す

F **出版社サイト**から探す

3）探した結果、市大に電子版がない場合



①市大 OPAC を検索して蔵書を探す

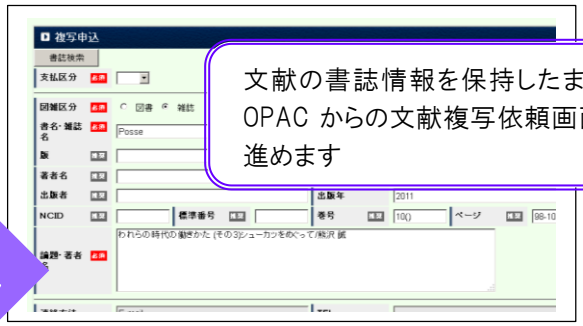
冊子体の雑誌を市大で持っているかもしれない！

OPAC 検索したけど市大では所蔵していなかった…

② 文献複写(ILL)※を申し込む

OPAC の「ユーザーログイン」画面に移動

画面の指示に従ってログイン



文献の書誌情報を保持したまま、OPAC からの文献複写依頼画面に進めます

※文献複写(ILL)は**有料**です。

リンクリゾルバを活用して、必要な文献はあきらめず入手しましょう！
利用に関してわからないことがあれば、図書館カウンターにお気軽にご相談ください。

図書館 Web サイトから PDF 版の利用ガイドをダウンロードすることができます。

学長対談「この人と話したい」

知の鉄人・来田卓哉さん（国際学部4年生） 紙面レポート

「この人と話したい」は、活躍している学生・卒業生・教職員から、学長が話を聞いてみたい人を学長室にお招きし対談する大学事務局の企画です。今回は図書館も関わっている「いちだい知のトライアスロン」で、トライアスロンコースを完走し「知の鉄人」として初めて表彰された国際学部の来田卓哉さんとの対談のため、「知恵の樹」でその一部をレポートします。

学長：「(知の)鉄人」達成、おめでとうございました。
来田さん(以下敬称略)：ありがとうございます。
学長：初の達成ということで、(トライアスロン事業を)始めてから少し時間がかかりましたが、来田君という名前は図書館からもいろいろ聞いていて、こうやってずっと続けていただいて初代鉄人という形になったことをとてもうれしく思っています。まず「知のトライアスロン」の鉄人認定なんですが、あれは(図書)50、(映画)25、(美術展)15(を含む計 120 点)でしたね？
来田：そうですね。
学長：でももっと読んでますよね。実際にはもっと読んでるしもっと見てる。美術鑑賞はなかなか難しいと思いますが、どうでしたか。
来田：定期的に場所、時間を見つけて、という感じですね
学長：どこか広島以外の土地に行った時も見たりとかしてるんですか？
来田：僕が基本的に行ってるのは市大とキャンパスメンバーズ協定を結んでいるひろしま美術館と広島県立美術館。あとは、フランスに留学していた時はそちらでも。僕の場合は先方の大学生として、学生証を見せればタダで鑑賞できました。
学長：なるほど。
来田：だから、ルーブル美術館とかオルセー美術館とかオランジュリー美術館等々も見てきました。

● ● ● ● ● ● ● ●

学長：「知のトライアスロン」の中で、自分はこういう本をたくさん読んだなっていう傾向を話してもらいたいんですが。
来田：僕がよく読む本は、興味があった国際政治とは全く関係無いような本を読むのが大好きで、何故かというと自分とは全く分野が違う人が書いた本は、自分の知らない世界がそこに描かれているからです。とりわけ、科学、数学に関することをたくさん読むようにしています。やっぱり新しく発見できたことによって今勉強している分野、興味があることに還元できて多角的な目で物事や視野を広げることができるということを考えているので、そういう傾向があります。
学長：確かに来田君が読んだリストを見ると、藤原正彦の数学者関係だとか数学者列伝(1)がありますよね。

● ● ● ● ● ● ● ●

学長：たくさん読んでてどれか一冊なんていうのは、よくある愚問だと思うんですが、それでもあえて今の大学一年生にどれか一冊お薦めっていったら何でしょうか？
来田：古臭いんですけど、吉野源三郎さんの「君たちはどう生きるか(2)」っていう。僕はあれを塾の先生から薦められて、…小学 6 年生かな？
学長：早い時期に読んでるね。
来田：お師匠さんみたいなおじさんと、その弟子としてコペル君が対話形式でやっていきながら、人生において重要なことは何なのか、これから自分がどういった考え方をもとにしていったらいいのか等、とても哲学的なことを中学生の主人公に教え込んでいく。そこが小学生の僕でもわかると同時に、後から知ったのは、これが「これから戦争に行くぞー！」っていう時代に書かれ、「自分の命を無駄にするな」という意味もこめられて書かれている、という事を巻末で日本政治思想では有名な丸山真男が解説しているのが非常に印象的でした。内容的には平易なことばで書かれているんですが、半世紀以上前に書かれた本とは思えないくらい、きっとこれからも読み続けられていくんだろうなって僕は思っている、すごくオススメ(の本)です。

● ● ● ● ● ● ● ●

来田：映画について言えば、僕がここ何十本も見ている中で最後に感動したのは、チャップリンの「独裁者」という映画ですね。
学長：地球儀の風船を蹴るやつだね。
来田：これも 1930 年代ごろに作られた映画で。もともとチャップリンは散髪屋で経営を営んでいた人(の役)なんですけど、その風貌はヒトラー(3)に似ていることから、間違われて軍隊にいっちゃって、そのままヒトラーの代役みたいに扱われていくんですね。(その中)で、印象的だったのは、当時ナチスが、ユダヤやその近隣諸国の人たちを蹂躙(じゅうりん)していたことをチャップリンは知っていたからこそ、最後に決してヒトラーが言わないような、「君たちは何のために兵士をやっているんだ。それは自分の国を守るためだろう。自由のために戦え。」等と熱く語っていくんです。この作品はアメリカ映画で、ユダヤ人やドイツの人にも見せたいという意味で作られたという時代背景があるんですね。チャップリンって映画界では「喜劇王」と言われますが、実際は社会描写が非常に長けていて、(この作品の)最後の 5 分間のチャップリンの演説っていうのは永遠に残るものだなと感じさせられました。

● ● ● ● ● ●

学長：(来田君は)フランス留学中もいろいろ美術館を巡ったという話でしたが、他の学生達の状況についてどう思いますか。もちろん、芸術学部の学生たちはそれぞれの専門分

野も含めて、自分なりに鑑賞の機会を作っているとは思いますが、じゃあ、情報や国際の学生が美術館に足を運んでいるかっていったらそれほどでもないと思うんだけれども。美術鑑賞に関して、特に国際や情報の学生になにか言ってほしいな。

来田：僕の友達にも結構多いんですけど、「美術」っていうものをすごくお高いものとしてみていたりするんです。（僕は）そうじゃないよ。『この絵きれいだな、いいな』ぐらいの感想で、『あ、こんな美術展もあるんだ。じゃあ行ってみようか』ぐらいの簡単な気持ちから始めていったらいいのかなあって思います。

学長：さっき来田君が本とか映画について語ったとき、作品そのものに加えて作られた背景だとかを含めてメッセージ性っていうのを読み取っていたと思うんだな。そういう意味では芸術に関してはどうですか。そのまま鑑賞することから始めるの、それともその作家を同時に勉強するの？

来田：僕は見てから「あ、面白そうだな」って思ったら、その作品、作者をひとつフォーカスするんですね。初期の作品と後期の作品は違って見えるんです。作者の心理描写、作品に投影されていくものが変わっていくというのは、やっぱりそれは一人の作者を知っていくことによって知ることができる。自分の全生命がそこに描かれている。絵っていうのはそこが出ていたりするので、僕は面白みを感じます。

● ● ● ● ● ● ● ●

学長：なるほど。さて、私が一番聞きたかった質問をさせてください。来田君は「知の鉄人」第一号になったわけだけど、「集中的に本を読む」ということで、何か自分の中に感じ取れるような変化があったのかどうか。君の場合、子供の頃からかなり読んでるかもしれないから、そういう変化が意識できたかどうかわからないんだけれども。

来田：僕は昔から読んでいたっていうのは語弊があるんですけど、小学校の頃に通っていた塾の先生が英才教育をしたい人で、吉野源三郎の他に三島由紀夫、鴨長明や山椒大夫など、かなり難しい本を小学生に読ませたんですね。

学長：小学生に。

来田：小学生に。読書感想文も徹底的に書かせるので、書く能力と読む能力は徹底的に鍛えられました。

学長：それは本質ですね。

来田：僕は、それが嫌で嫌で。『君たちはどう生きるか』がどういう意味かわかったのって、大学 2 年生ぐらいですね。こんな本読んだな、って読み直したんですよ。小学校でそれ読んだっきり、中高では僕部活三昧で…。

学長：そうだったんですか。

来田：朝から晩まで塾と部活のその繰り返しで時間が取れなかったです。で、大学に入ってから、「大学生なんだから新聞ぐらい読むのは当たり前だろ？」と新聞を開いて、こう一面みたいなところ（を読むと）、書かれていることや言葉がわからないんです。例えば今だと「集団的自衛権」とか「社会保障」とか「高齢化問題」とか書かれているんですけど、意味がよくわからなくて。

学長：なるほど。

来田：「あれ？こんな事、俺知らないし。俺大学に入って、こんな事も分からずにこのまま 4 年間大丈夫か？」って自分で不安を感じたんですね。その時に、僕はすごく…単純な人間なんですけど、「分からないなら、読むしかないんじゃない？」と思って。でもやっぱり目標がないとだめだったんで、ある先生から「100 冊ぐらい読んでみたらどうでしょう」って言われたので、僕も「とりあえず 100 冊読んだら大丈夫か」って。入学して 4 月から半年ぐらいかけて 100 数十冊読んで。50 冊超えると、なんとなく自分の中で自信が持てるようになってきて。

学長：どういう自信？

来田：それは、辞書がなくてもグーグル検索をせずとも新聞が読めるようになる。

学長：なるほど、成果の指標がわかりやすいですね。

来田：その問題に対して自分が新書で得た知識っていうのを更に深めたくなって、そこで専門書を（手に）取ってみたり、先生に聞きに行ったりして討論してみたり、友達に会話を振りながら、自分自身の問題意識を深く掘り下げていくっていう興味が出てきたんですね。やっぱり初めは「知らない」っていうことに不安を覚えたり、同時に「知らない」状態から「知っていく」状態にしていくなかで「知る喜び」っていうのが出てくるんです。そして改めて自分がまた「何も知らないのか」っていうのを知っていくんですね。それの繰り返しです。

学長：うーん、いい循環だね。

来田：と同時に、自分が読んだのってやっぱり人に薦めたい!

学長：なるなる。「読んでほしい！」って。

来田：その時に、基礎演習で取り組んでいた「知のトライアスロン」っていうのを続けてみて、その翌年は教養演習に入って、ある時赤星先生に言われたのが「このまま鉄人狙ってみたらどう？」っていうので、フランスの留学の最中にかなり（本を）読む時間があったので、今ここに至るってわけなんですけど。今どういう変化があるかっていうと、「暇な時間があれば本を読みたい」って気持ちなんです。活字中毒みたいな。

学長：量をこなすと中身というか、質が変わることがあるよね。そうすると、新聞一つとってみても、読み方が変わってくると思うし。自分自身が変化して、活字に対して敷居が低くなるというか、どんどん読むようになっていきますよね。

来田：そうですね。やっぱり大学生活ってモラトリアムと言われてますけど、…大人になったらいうじゃないですか、「もっと本を読んでおけばよかった」って。そんなの分かっているから、とりあえず読んだほうがいいって。その後、絶対一生残っていくひとつのレールになると思いました。

学長：なるほど、よくわかりました。今日はどうもありがとうございました。

（対談日:2014 年 11 月 10 日）

【注】
(1)『天才の栄光と挫折 ： 数学者列伝』文藝春秋 2008 年
(2)『君たちはどう生きるか』岩波書店　1982 年
(3) 映画では「ヒンケル」という役名

大塚中学校職場体験レポート！

平成２６年１１月１３日（木）～１４日（金）の２日間、広島市立大塚中学校の生徒２名が、職場体験学習の一環として図書館の仕事を体験しました。
体験内容は、開館準備やカウンター業務、図書の装備、データ入力、新聞整理などの仕事です。

新聞整理

「外国語の新聞を初めて手に取りました」

保管期限を過ぎた新聞を縛っているところ。生徒さんの様子を見に来た先生も海外の新聞に興味津々…?

カウンター業務

何故か大学生も緊張しています

「手書きでラベルをきれいに書くのは難しかったです」

図書装備

データ入力

入力の手順が思ったより難しく苦戦した模様…

二人とも初めての仕事に終始緊張しながらも、一生懸命取り組んでくれました。カウンターでは教職員や学生に「職場体験の中学生さん？」など声を掛けられることもあり、恥ずかしそうにはにかんだ様子なども見ることができました。

２日間という短い時間でしたが、今回の職場体験で得たものを、学校生活や将来の職業選択に生かしていただけたらと思います。

学生、教職員の皆さま、温かく見守っていただきありがとうございました。

ビブリオバトル ＠広島市立大学

11 月 1 日(土)の大学祭初日に、「**ラーニングコモンズ開設記念　ビブリオバトル@広島市立大学**」を開催しました。
出場者(バトラー)は、ジェスチャーを使ったり、紹介本に出会った頃のエピソードを盛り込むなど、どれも情熱と工夫が光る素晴らしい発表で、“バトル”と名が付いていながらも、終始笑いあり感動ありの和やかな時間となりました。そして大接戦の結果、チャンプ本には本島さんの『世界がもし 100 人の村だったら』が選ばれました。
出場者の皆さん、観戦者の皆さん、ありがとうございました。

出場者(バトラー)と紹介本

①寺林寛（芸術学研究科２年）
今村夏子著『こちらあみ子』筑摩書房 2014 年
②中広未来（国際学部３年）
ダン･ブラウン著『ロスト･シンボル』角川書店 2012 年
③溝口昴明（国際学部３年）
葉室麟著『蜩の記』祥伝社 2011 年
④本島千明（国際学部２年）
池田香代子再話『世界がもし 100 人の村だったら』マガジンハウス 2001 年
⑤安森璃菜（情報科学部２年）
坂木司著『ホテルジューシー』角川書店 2010 年

いちだい BOOK リユース市

11 月 1 日(土)大学祭初日に「いちだい BOOK リユース市」を開催しました。大学の知の財産の有効活用を図るため、不要となった図書館資料を一般の方へ販売しました。小雨の降る中、多くの方にご来場いただきました。
事前に学生･教職員へも販売を行っており、合わせて約 1,100 冊を有効活用することができました。

いちだい知のトライアスロン　イベント報告

出張講座 ＠ 広島市映像文化ライブラリー －MoMA ニューヨーク近代美術館 映画コレクション 「アンディ・ウォーホル プログラム」－

12月4日(木)、広島市映像文化ライブラリーとの連携事業で、映画に関する講演と映画「スクリーンテスト アンディ・ウォーホルの最も美しい女性たち」、「ヴェルヴェット・アンダーグラウンド・アンド・ニコ」の上映会を開催し、91名の皆さんにご参加いただきました。まず、芸術学部のチャールズ・ウォーゼン准教授によるアンディ・ウォーホルの作品の変遷とその背景に関するミニ講座(約20分)があり、その後2作品を鑑賞しました。

＜参加者の声＞

- 自分がカメラになったように感じました。
- これは作品なのか実験なのか考えました。
- サウンドと激しく動くカメラワークが連動し、一体化していました。

出張講座 ＠広島県立美術館 －広島が生んだデザイン界の巨匠 榮久庵憲司の世界展－

12月13日(土)、広島県立美術館で「広島が生んだデザイン界の巨匠　榮久庵憲司の世界展」に関連して出張講座を開催し、74名の皆さんにご参加いただきました。まず、及川久男先生による、「榮久庵憲司の世界」と題したDVD上映を含む講演がありました。その後、展覧会会場に場所を移し、広島県立美術館角田新学芸員による展示の見どころと代表作の解説等のギャラリートークがありました。

＜参加者の声＞

- 「道具にも心がある」という言葉に感動しました。
- よく知っている身近なもののデザインが、かなりあって驚きました。
- 広島に縁のある人とは知りませんでした。
- DVDの上映で、「コンパッソ・ドーロ賞」という賞があることを初めて知りました。

いちだい知のトライアスロン　関連事業報告

ブックハンティング＠紀伊国屋書店広島店

11月8日(土)、紀伊國屋書店広島店で『第6回いちだいブックハンティング』を開催しました。今回の参加者は6名。市大生の代表として、図書館に置く本を真剣に選んでいました。購入した128冊は館内展示を行っています。ぜひ手に取ってみてください！参加者からは「たくさんの本を選べるのが楽しかった」、「大学図書館に入れるもの、というのが難しかった」などの感想をいただきました。

今年度のブックハンティングはこれで終わりですが、また次回のご参加をお待ちしています。

「英語　多読本はじめました」

1階「いちだい知のトライアスロンコーナー」に、英語多読コーナーを設置しました。
図書のレベルは全部で5段階あり、映画タイトルやミステリー、オリジナル作品などバラエティに富んだ内容となっています。自分のレベルや興味に合わせて楽しく始めてみませんか？多読で“英語の基礎体力”を上げましょう！！

【多読(Extensive Reading)とは…？】
たくさん読む＝英語に触れる量を増やすことで、英語を吸収する量も増やすという学習法です。
文章の内容や大意を素早くつかむことを意識し読むことで、読解力、語彙力アップに効果的と言われています。
ポイントは“自分に合ったレベル、関心・興味のある”本を選ぶこと。「これなら読める」というレベルの本から読み進め、徐々にレベルを上げていくのがおすすめです。

わたしの一冊

情報科学研究科　福島　勝　准教授

『スピンはめぐる：成熟期の量子力学』

朝永振一郎著　中央公論社　1974年

過去の「一冊」は多くが文系。今回はバリバリの理系本、「スピンはめぐる」を挙げる。この本、著者はノーベル賞物理学者、朝永振一郎先生、内容は量子力学から場の量子論までの挿話(教科書の章の合間に置くべき、ちょっとクダケた物語り)である。この本、先生の専門分野ということで、多くの学術論文に基づき、交友のあった学者からの噂話も含め、広い視点で俯瞰した物語りとなっている。参考にしてる論文は、勉強すると、相当手強そう(私もその多くを見たことも無い)だが、朝永先生は優れた文筆家(エッセイ等、執筆も多数)でもあり、これらを手際良くまとめている(元々、各章が雑誌の連載だったのもあるかも)。登場人物は Pauli、Dirac や湯川秀樹など、名だたる面々で、挿話とは言えかなり難解であ(るが、行列等の大学初等数学を知ってれば何とかな)る。この本にふれるにあたり、日本人実験屋の登場に注目してもらいたい。この日本人は Bohr のもと、コペンハーゲンでの自身の実験をもって、理論に決着をつけた。特に、理論屋から強度比の測定データを尋ねられた際、「メノコで 1:3 である、と即答した」との件(くだり)には、実験屋のこれぞ実験屋たる態度がビンビンくるとともに、腕一本で国際的・学術的挑戦を志す姿勢が感じられ、学生時代に大いに感銘を受けた。(この人物は Herzberg の原子の本を訳された堀健夫先生である。)この本、シカゴ大学の岡武先生による英語版もある。朝永先生の語り口が岡さん流に如何に英訳されているのか楽しむのも面白い。

この本は図書館2階にあります。ご利用ください。【図書館　2F　421.3トモ】

この本には英語版(“The story of spin”)があります。併せてご利用ください。【図書館3F 421.3TO】

※【　】内は配架場所と請求記号です。

LOOK HERE!

● 開館時間の変更について

試験前後、学年末及び春季休業期間中は開館時間が変わりますのでご注意ください。
（詳しくは、Webサイトの図書館カレンダーでご確認ください。）

１月１６日（金）～　２月　５日（木）	午前８時４５分～午後８時（延長開館）
２月１７日（火）～　４月　６日（月）	午前８時４５分～午後５時（短縮開館）

● 学年末及び春季休業期間中の貸出期間について

学年末及び春季休業期間に伴い、2月3日（火）から図書の貸出期間が変わります。

区　分	特別貸出期間	返却日
学生（１～３年生）	2月 3日（火）～3月３０日（月）	4月１４日（火）
大学院生	2月 4日（火）～3月１３日（金）	4月１４日（火）
卒業・修了予定者	通常どおり	

＊授業参考書・トライアスロンコーナーの図書、及び雑誌の貸出期間は通常どおりです。ご注意ください。

● 卒業･修了予定の皆さんへ

卒業・修了予定の皆さんの***最終返却期限は、３月２３日（月）卒業式の日***です。卒業式が始まる時間までに忘れずに返却してください。

大学院へ進学される場合も、借りている本は一旦返却していただくことになります。引き続き借りたい場合は、図書を持参の上、カウンターへお申し出ください。

自分の利用状況がわからない場合は、OPACの貸出予約状況照会画面で確認するか、カウンター職員までお尋ねください。

編集後記

今回の特集は、新しく導入した「リンクリゾルバ」を取り上げてみました。来年卒業論文を執筆する 3 年生の皆さんには、資料集めの際に是非使いこなしていただきたいと思います。またもう一つの特集で学長対談「この人と話したい」も掲載しました。実際は、学長と来田さんのお話はもっと内容盛りだくさんだったのですが、紙面の都合もあり泣く泣くカットしています。この様子は、大学 Web サイトでも公開される予定ですので、そちらも是非ご覧ください。

2015年1月14日発行
広島市立大学附属図書館
広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
TEL　：（082）830-1508
FAX　：（082）830-1659
E-mail　tosho@lib.hiroshima-cu.ac.jp
http://www2.lib.hiroshima-cu.ac.jp